

沙弥満誓の歌一首

三五一番

世よの中なかを 何なにに喩たとへむ 朝あさ開びらき 漕こぎ去いにし舟ふねの  
跡あとなきごとし

若湯座王の歌一首

三五二番

葦あし辺へには 鶴たうがね鳴なきて 湊みなと風かぜ 寒さむく吹ふくらむ  
津つ乎をの崎さきはも

釈通観の歌一首

三五三番

み吉よし野のの 高たか城きの山やまに 白しろ雲くもは 行ゆきはばかりて  
たなびけり見みゆ